

新津の巨樹・名木⑬



八幡神社の銀杏

(市内車場)

車場八幡神社境内には、銀杏の古木が生えています。この銀杏は幹周り4.01メートル、高さ25メートルで、樹齢約250年と推定されています。古木は神社の御神木として大切に保存され、秋に実が熟すころ、強い風が吹いた日の翌朝には、隣近所の人たちが銀杏を拾ったりするなど、地域や住民にとって大変親しみのあるものです。

銀杏の花言葉を調べると、「鎮魂・荘厳・静寂」となっていて、いかにも社寺の境内にふさわしい感じがします。そして木にはいろいろの思い出が秘められているといわれますが、車場の銀杏にはいったいどんな思い出が秘められているのでしょうか。そんなことを考えさせる不思議な雰囲気を持った木といえます。

新津市の人口

男	31,915 (+ 30)	8月31日現在
女	34,301 (+ 25)	
計	66,216 (+ 55)	()内は前月比
世帯数	18,731 (+ 36)	
8月中の動き		

出生 55 死亡 46 転入 160
転出 114 結婚 12 離婚 1



リレー 随想

(257)

※このコーナーは、寄稿者が次の寄稿者を紹介して随想をリレーしていくコーナーです。

将棋と

堤

私

正幸(下興野町)

後ろの席の方で椅子の上に将棋盤を置き、二人で駒を差したものです。しかし、授業中の将棋は先生にすぐ見つかり、そのたびに駒は没収され、私たちは安い駒を買ってくるといふ繰り返しでした。駒は四、五回くらい没収された記憶があります。あれから約三十年が過ぎた今でも、当時の将棋のこと

り、むしろ趣味の範囲で楽しみたいというものになりました。今では週に一、二回近くの将棋センターに足を運び、気が向いたら県の大会に参加する程度です。そして、将棋を通じて出会った仲間たちと語り合い、時には近くの温泉へ出かけ、ゆっくりと将棋をしながら酒を飲み交わし、夜が更けるのも

このパトンを善道町二の土田裕さんにリレーします。

私が将棋を覚えたのは、小学校三、四年生のころと記憶しています。当時は近所の仲間たちと遊びとして行う程度のものでした。最も熱中したのは、高校生のころです。同じクラスに将棋の強い友人がいて、授業をそっちのけで行っていました。先生の目を盗み、

は同級会などの席で語り草になっていました。私は、高校時代にあれだけ熱中した将棋をどういうわけか途中はったりやめていました。そして、再び始めたのは三十歳を過ぎたころでした。それ以来、私の将棋に対する接し方は強くなりたいたいというよ

忘れて心底、楽しんでいきます。そこには年齢や職業にこだわらない、素晴らしい人間関係が生まれています。また、年に一回の夏の歩行者天国では、緑台将棋を企画し、市民の皆さんに楽しんでもらっています。このように、私の趣味が少しでも地域に密着し、青少年には非行防止、お年寄りにはボケ防止に役立っていると思っています。市民の皆さんも将棋の上手、下手に関係なく、私たちと一緒に将棋を楽しんでみませんか。

お買物、ご用命は市内で



奥様の夢♥かなえます!!
浴室 キッチン トイレ……
見直してみませんか。

見積り無料 お気軽にご来店ください

水まわりの
増改築専門店

水と住まいのふれあい
システムショップ かねみや

INAX

本町2丁目1-11 ☎24-1630